

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』  
岩崎夏海著／ダイヤモンド社

著者はAKB48のプロデュースに関わったこともある放送作家。この本は、普段はマンガしか読まない人でも楽しんで読めるよう、易しい言葉で書かれている。私もこの本が巷では200万部も売れていると聞き早速読んでみたが、一晩で読み切ってしまった。漫画化もされ、アニメ化・映画化もされたので、映像を見た後にこの本を読むのも良いかも知れない。ストーリーはタイトルの通り、ある高校2年生が急に野球部に入部しマネージャーとなり、弱い野球部を約1年で甲子園に行かせてしまうというミラクルストーリーなのだが、ミラクルを起こす源泉が「マネジメント」というP.F.ドラッカーの著書であるところが面白い。下敷きとなっている大著「マネジメント」は経営学のバイブルとも評され、組織運営や会社経営を学ぼうとする人から愛されている本であるが、もしドラのヒロインは、『野球部のマネージャーをするにはマネジメントを勉強したらいい』と「勘違い」したことがきっかけで、「マネジメント」のエッセンシャル版を購入してしまうのである。ヒロインは勘違いにすぐ気付いたが、折角買った本だからと読み進めていくうちに、自分たちが抱えている問題を解決する答えが「マネジメント」に散りばめられていることに気づくのである。そして「困ったらこの本に戻る」ことを自分たちの行動の原点にして、野球部の中の様々な問題を解決していくのである。ストーリーとしては野球部を舞台にしているが、実は著者自身が、自身の問題解決を「マネジメント」から得た体験がベースとなっていることに気づく。登場人物の何人かのモデルは、AKB48のメンバーとのことである。著者自身の芸能界での経験を、舞台を野球部に移し書き上げたものではないだろうか。

私がこの本を薦めるのは、AKB48に関係があることやベストセラーであるから等ではない。10代20代の皆さんに「自身をプロデュースする」という感覚を持って欲しいからである。青春ストーリー仕立てのこの本は、分かりやすく「自分をプロデュースする」「自分をマネージメントする」ということを教えてくれる。AKBメンバーは秋元康氏を「先生」と呼ぶそうである。想像ではあるが、秋元氏はAKBメンバーの日常生活にまで細かな指導をしたりはしていないだろう。逆に、メンバーをどのように「マネジメント」していけば伸びるだろうかという事を真剣に考えているに違いない。このガイドブックの読者は芸能人を見て「私にも良

---

いプロデューサーがついていてくれたらな」と羨ましく思ったことがあるかもしれない。しかし皆には、最高のプロデューサーがついているじゃないか。それは「自分」である。もしドラには、自分がどう動けば回りがどう変えられるという“マネジメント”を実行していく過程が“説教臭くなく”書かれている。芸能界を高校野球部に置き換えたように、このストーリーを学生生活に置き換えて考えてみてはどうだろう。「将来こうありたい」という自分を、「もう一人の自分がマネジメントしていく」という感覚で捉えていけば、自分の弱さに負けそうになった時に、力となってくれるのではないか。読みきり本ではあるが、繰り返し読んでも、問題に突き当たった時に読み返すのも良い。更に関心が深まれば、ドラッカーのマネジメントを読んで見るのも良いのではないだろうか。

## 執筆者紹介

### 木村 宗弘

電気系准教授。専門領域は、液晶ディスプレイに関する物性評価や新しい駆動法の開発。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』

岩崎夏海著 ダイアモンド社 2009年 1,680円

『マネジメント：務め、責任、実践 新訳版4巻セット』ピーター・ドラッカー著 有賀裕子訳 日経BP社 2008年 10,080円

[ブックガイド目次へ](#)